



# 特 別 号

令和5年度末で地域おこし協力隊を卒業した、笹原爽志さん・青山詩乃さん・八重樫琴江さん・伊藤和久さんに、これまでの活動を通しての思い出と、退任後の活動について聞きました。

## 観光コンテンツ開拓 体験型観光を広げる



ささはら そうし  
笹原爽志さん

自分のミッションである「体験型観光のブランド化」に向けて、3年間活動してきました。

着任当初の2021年は、新型コロナウイルスの影響で観光業はもとより、ほかの産業でも転換期を迎えていました。当時の観光パンフレットには、体験型コンテンツが40近く掲載されていましたが、実際にコンテンツを体験するための申込窓口などが整備されているものは20程度でした。

活動は市内事業者さんへの聞き取り調査や、モニターツアーを作る機会をいただくなど、手探りの状態でスタートしました。本市の素晴らしい魅力を伝えていく観光コンテンツに、お客様を呼ぶためにはどうしたらよいか、面白いコンテンツを人々に伝えていくためにはどうすればよいか。まずは、このようなイベントを市内に

周知することから始めました。

特に宮古市観光文化交流協会や、宮古版DMO事務局と協力し、既存の観光事業者さん同士でアクティビティを体験するプログラムを開催しました。お客様が入らない状況に対して相互にフィードバックを行い、商品力を向上させたり、アクティビティを体験する中でのお客様の安全性を高めてきました。

これから本市の体験型観光は市外に広がり、県外に広がっていくと思います。外国客船が入港することによってインバウンドの需要も増えていきます。本市をさまざまな方々が訪れることで森・川・海の調和のとれた素晴らしい景色が広がっていくといいなと思っています。3年間ありがとうございました。



三年間でもらった一番の笑顔（いちご狩り体験型観光イベント）

## 地域の活性化目指す 多くの出会いに感謝



や え が し こ と え  
八重樫琴江さん

令和5年4月、市水産課所属として地域おこし協力隊に着任して一年間。3月をもって卒業することになりました。数えきれないほどの出会いを経験し、忘れられない一年間となりました。改めて、これまで応援していただいた皆さんに心から感謝いたします。

私の活動のミッションである大きな柱の一つは「重茂地域の地域活性化を図る」こと。生まれ育った宮古に戻りながら重茂地域での活動は、地域の人たちの心の温かさ、地域力の強さ、海と共に生きてきた大切な歴史や魅力について数多く学ぶことができました。

宮古水産高校の生徒の皆さんと行ったMSCベリッシマ入港時の出店や、えんやあどつと新漁師飯メニュー開発。みやっこベースの子どもたちが初参加となったわかめの芯抜き体験。障がい者就労継

続支援事業所「ジョブシーズみやこ」の皆さんと取り組んだ焼きうにストラップの商品化。宮古地方食の匠を招き「焼きウニごはん」を伝承していただいた講習会。市内の子どもたち向けに企画した、アワビの稚貝を利用したワークショップの開催などの活動を行うことができました。

まさに地域おこしという字のごとく、地域のために活動し、地域の方々に学び育ててもらった一年間でした。4月から念願の夢であった、ふるさと宮古で福祉の道の第一歩を歩き出すことになりました。これからも宮古の皆さんと一緒に頑張りたいと思います。どうぞよろしく申し上げます。



たくさんのことを学んだ「えんやあどつと」

# 地域おこし協力隊だより

## 市内商店と連携図る 情報発信体制を構築

私のミッションは「市内商店・商店街の情報発信および情報発信体制の構築」でした。商店や商店街の情報・魅力を市内外に伝え、来店や購入のきっかけ作りに取り組みました。

「情報発信」では、SNSや紙媒体（フリーペーパーの発行）で、店舗紹介動画や店主紹介記事の作成と発信を行いました。また、イベントによる情報発信では、宮古市の「ヒト・モノ・コト」を伝えるイベント「食堂『みやこ』」を、首都圏や仙台で3カ月に1回の頻度で開催し、2年間で約150人に参加いただきました。イベントを通して、宮古市の魅力を体験してもらい、本市に来訪するきっかけを作ることで、宮古と首都圏や全国をつなぐことができたらうれしいです。

「情報発信体制」の構築では、



あおやましの  
青山詩乃さん



盛大に開催された食堂「みやこ」×青山学院大学

商店街や地域の方々をメンバーに、商店街の情報発信に取り組み「商店街情報発信チーム」を発足しました。外国客船寄港時に向けた「英語版商店街MAP」の作成や、「店主向けSNS勉強会」を行いました。SNS勉強会では、顧客獲得を目的としたインスタグラムの活用方法について実践形式の研修を行い、商店のアカウント開設やフォロワー増加につなげる事ができました。

今後は、宮古市や個店の情報・魅力をより多くの人に発信できる人材になれるよう、スキルアップできる環境で修業する予定です。今後も遠隔地から宮古市に関わりながら、より効果的に宮古市を全国や世界に発信できるよう、頑張ります。2年間、本当にありがとうございました。

## イロで宮古市をPR 本質的な魅力発信を

1年弱での退任となりましたが、大変お世話になりました。

市では、三陸屈指の観光スポットである浄土ヶ浜をイメージした「浄土ヶ浜エターナルグリーン」を地域のシンボルカラー、「地域色」として定め、イロを使ったシティプロモーションを展開しています。

このイロを取り入れた衣類やお菓子などの商品も充実し、市内外でのさらなる認知度向上に努めています。昨年6月の着任後、私もこの活動をお手伝いしてきました。

年に数回、市内外のイベントなどに出席していますが、イロを前面に押し出した取り組みは全国的にも珍しいようで、来場者からの



岩手わかすフェス2024  
@大手町 宮古市ブースの様子

反応も好評です。初見の人には「面白い取り組みですね」と興味を持っていただいています。

肝心の色合いについては、最初に見た時、使いどころが難しいのでは…と思ったのですが、それは杞憂で「綺麗」「素敵」という声が大半です。（唯一のネガティブ反応は「高速道路の標識みたいだ」というものでした。これはこれで貴重なご意見です）

しかし、イロはあくまでイロであって、宮古市の本質的な魅力ではありません。今後は宮古の真のウリとなるモノ・コトを厳選し、それらにこのイロをまとうせていければPRにつながるのではないかと思います。

地域おこし協力隊を退任しましたが、当面宮古暮らしを楽しみ予定です。今後ともよろしくお願います。



いとうかずひさ  
伊藤和久さん